2019 年 12 月 25 日

日本ジオパーク再認定審査結果

日本ジオパーク委員会

日本ジオパーク委員会は、今年の 10～12 月に現地審査を行った 9 地域の再認定について審議し、以下のとおり決定した。

再認定：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク、白山手取川ジオパーク、佐渡ジオパーク、三陸ジオパーク、栗駒山麓ジオパーク

条件付き再認定：磐梯山ジオパーク、ジオパーク秩父、男鹿半島・大潟ジオパーク、三島村・鬼界カルデラジオパーク

現在、日本ジオパークは 44 地域である（うちユネスコ世界ジオパークは 9 地域）。

再認定

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク

2013年に条件付き再認定となり、それを契機にジオパーク活動への理解が深まった。2015 年の再認定審査で指摘された項目も概ね解決された。勝山市が推進してきたエコミュージアム活動がジオパークに引き継がれ、今では地域住民それぞれの思いがジオパークを形作りつつある。特にまちづくりにおける地域文化や地域資源を尊重した活動が地域振興につながっており、ボトムアップで推進するジオパーク活動の一つのモデルを示している。今後、保全計画やマーケティング戦略の充実も期待する。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

白山手取川ジオパーク

2015 年の再認定審査後、道の駅や拠点施設におけるジオパークの情報発信力が強化され、地域団体、各施設管理者、大学などとの連携体制づくりに大きな進捗が見られた。ガイド認定制度が整備され、観光連盟など、関係者との協力体制のもと、通年で有料ガイドツアーが提供されていることや、国内外のジオパークとの連携活動への積極的な取り組みなどが評価できる。今後、ジオパーク、ユネスコエコパーク、SDGs 未来都市の三つの枠組みを連動させて、住民主体の持続可能な社会の実現を期待する。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

佐渡ジオパーク

2017 年の条件付き再認定で指摘された事項について、ほぼ改善が認められた。世界文化遺産登録に向けた取り組みおよび世界農業遺産との連携が進み、住民や民間企業のジオパークへの理解も広がった。交通拠点におけるジオパークの可視化や、これまで整備が進んでいなかった地区における活動の拡大を確認した。今後、島全体がジオパークであることを意識した拠点の充実化や情報発信、安定的な運営体制の維持が期待される。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

三陸ジオパーク

2017 年の条件付き再認定では、組織運営体制の不備や広範なエリア内での連携・情報共有の不足などの課題が指摘された。その指摘を重く受け止め、岩手県や 16 市町村が、ともに課題の改善に向けた努力を積み重ねたことが確認できた。今後、ガイド活動のさらなる活性化を進めるとともに、津波災害からの復興で得た経験を国内外に発信することを期待する。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

栗駒山麓ジオパーク

関係機関と連携した地すべり跡地の保全に加え、専門員やジオガイド、語り部による教育プログラムの提供により、自然がもたらす災いと恵みを地域の子どもたちが学ぶ機会が増えている。ビジターセンターの開館や地域産品のブランド化事業が、交流人口の増加と地域住民の参画を促し、ジオパークを活用した新たな経済活動が生まれつつある。運営組織も安定しており、今後、ジオパーク活動の可視化を進めることにより、さらにその質の向上が期待できる。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

条件付き再認定

磐梯山ジオパーク

地域全体の自然や歴史文化を語るストーリーがガイドらにも共有され、新たに山塩や磐梯山ジオパークカレーなど、食の要素を活かした取り組みなども広く展開されている。しかし、2015 年の再認定審査で指摘された課題への対応が十分でない。今後、ジオサイトの保全を含む基本計画の見直しや、検討中の拠点施設の整備などを進める上で不可欠な運営体制の強化が必要である。

以上のことから、日本ジオパークとして条件付き再認定とする。

ジオパーク秩父

１市４町の協働によるジオパーク運営を模索し、地域においても関連する活動が生まれつつある。しかし、ジオパークの理解が関係者間で進んでおらず、ジオパークとしての一体的な運営にまで至っていない。特に、持続的な事務局体制、ジオサイトの選定と保全、ネットワーク活動に関して課題が存在する。また、甲武信ユネスコエコパークとの連携も期待したい。

以上のことから、日本ジオパークとして条件付き再認定とする。

男鹿半島・大潟ジオパーク

日本ジオパーク全国大会を契機として、２市村の連携強化が図られた。ホームページやパンフレットの整備や、拠点施設の受け入れ態勢の改善が見られる。しかし、ジオパーク活動を展開するための、安定的な管理運営体制が確保されていない。今後、専任職員や専門員を配置するとともに、ジオサイトの選定の見直しを進めることが不可欠である。

以上のことから、日本ジオパークとして条件付き再認定とする。

三島村・鬼界カルデラジオパーク

ジオパーク認定後、島外からの研究者や学生の調査研究･実習での来島が増えている。小中学校の教育活動に力を入れ、住民のジオパーク活動への関心も徐々に広がり、成果が少しずつ出ている。しかし、ジオパークによる島の持続可能な開発戦略が明確となっていない。三つの島の個性を活かした運営の在り方、基本方針、アクションプランの確立が急務である。また、わかりやすいストーリーに基づいたジオパークの見どころの情報発信や、防災情報の提供強化も必要である。

以上のことから、日本ジオパークとして条件付き再認定とする。

以上